

『花を訪ねて：紫陽花』

松戸・本土寺散策報告(2023年6月14日(水))

紫陽花の見所を探していたら、麻綿原高原や南沢アジサイ園の約一万本と比べて断突に多い三万数千本という「松戸・本土寺」が見つかった。梅雨の合間なので晴天は期待できないのだが、「紫陽花と花菖蒲は雨でもよい」との持論のもとに、早速出かけることにした。

当日は伊藤さん、三ヶ原さんと陽田の3名で出かけることになった。「本土寺」は北小金駅から徒歩約12分の近間なので、10時に駅に集合することにした。出がけ時には空が少し明るかったのだが、綾瀬駅で地上に出ると物凄い雨が降って来て、気の毒にビショ濡レになって電車に乗ってくる人もいた。

10時に北小金駅で集合したとき、少し小降りにはなったがまだ降っていた。“通り雨”なので間もなく止むことを念じて、傘をさして出発した。直ぐに櫛の木など高い広葉樹の茂る参道に到着、漬物、菓子などの店も並ぶ道を進む。立派な「仁王門」をくぐった先に関所が待っていて、¥500也の入門料をお納めした。

平日だがかなりの人が来ている、そして年配女性が圧倒的に多かった。まず本堂でお参りをして、それから広い境内に踏み込む。うっそうとしたモミジや櫛などの広葉樹や竹の林を抜けると、紫陽花の花群と花菖蒲の池が目飛び込んできた。花菖蒲の池に降りてみると、花菖蒲は半分枯れてしまっていたがまだまだ見応えがあった。もう雨は殆ど止んでいたのだから傘をしまって歩く。

花菖蒲の池から再び色々な色彩の紫陽花の中を進む、本土寺は「紫陽花寺」として有名であるが、境内にはモミジの木が多く、秋の紅葉時期も訪れてみたいと思った。更に進むと今度は睡蓮の池が現れた。池の中心には小さなお堂があり、睡蓮とよくマッチしていた。紫陽花の植え込みの中から正面の参道に戻り、「五重塔」を見上げる。約1時間の散策後、11時10分に王門から帰途に着いた。

北小金駅附近には「サイゼリア」はないので、数駅先の松戸駅まで電車に乗る。松戸の「サイゼリア」には昨年9月に、「松戸・祖光院」に彼岸花を見に来た帰りにも寄った。11時45分に席に腰を落ち着けて、フリーの乾杯、その後温泉の話や今後の山行計画などの話をした。三ヶ原さんは相変わらず温泉行と山行の“二行流”でお忙しそうだ。百万円でクルーザーをチャーターして「トカラ列島の温泉巡り」をした話は以前お聞きしていたが、日本一高所の温泉として「立山：みくりが池温泉(標高 2,410m)」に入った話や、黒部峡谷下廊下の「阿曾原温泉」(櫛平から徒歩 12km です！日本一危険な温泉とか)、更には伊藤さんから「日本一遠い温泉は雲の平附近の“高天ヶ原温泉”(標高 2,100m)でしょう」(行くには最低でも2日歩く必要がある)、また「八ッ岳：本沢温泉は日本一高い露天風呂(標高 2,150m)」などの温泉談義であった。今後の計画として来週19日の「湯ノ丸高原」、7月9日「霧ヶ峰山行」、16日に「御嶽山一日出山一つつつる温泉」、8月1日からの「大型山行：燕岳一常念岳」まで決まっている。8月下旬の「上高地散策」は、宿が満杯で取れないと。「コロナ禍」が一応終了して皆さん行動を開始しているので、“早くからの行動”が要求されているのだ。9月以降はもう「紅葉狩り山行」の心配をしなければならない。ああー忙しい！“紅葉”として「栗駒山」が真っ先に挙がるが、須川温泉の宿が取れないと、他に「日光戦場ヶ原」、「尾瀬ヶ原」、「那須：姥ヶ平」、「安達太良山」などが候補に挙がった。

土日曜なら“90分縛り”だがこれを超えて14時に店を出て松戸駅に向かい、電車の中で流れ解散した。

以上 陽田



雨に濡れた紫陽花



純白の紫陽花



紫陽花群と花菖蒲田



花菖蒲田



雨滴をまとった花菖蒲

